

会議録

1. 会議名	第4回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	平成26年8月28日(木) 9:30~12:00
3. 開催場所	出雲市役所本庁 3階 大会議室
4. 出席者	<p><委員></p> <p>肥後功一委員(会長)、齋藤茂子委員(副会長)、原 広治委員、福代秀洋委員、板倉明弘委員、野々村学委員、井上公博委員、羽根田紀幸委員、村田 實委員、福間泰正委員、高橋良介委員、布野和弘委員、廣戸悦子委員、高橋悦子委員、原 成充委員、西 郁郎委員、吾郷弘司委員 (順不同)</p> <p>(欠席: 土江 優委員、堀江正俊委員、山岡清志委員)</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、子育て調整監、子育て支援課長、福祉推進課長、健康増進課長、市民活動支援課長、市民活動支援課青少年育成室長、学校教育課長、学校教育課児童生徒支援室長 ほか</p>
5. 次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員の紹介 3 あいさつ 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各部会の協議状況について(報告) (2) 出雲市子ども・子育て支援事業計画(素案)について(協議) (3) その他 5 閉会
6. 議事要旨	以下のとおり
事務局	1 開会
健康福祉部長	<p>(健康福祉部長あいさつ)</p> <p>平成27年度の教育・保育施設利用の公定価格が国の来年度の予算編成で決定される予定であるなど、まだまだ未確定な部分が多い現状である。新制度のスタートが来年に迫る中であるが、今後の国の動きを注視しながら、必要な準備をしていきたい。</p> <p>これまでいただいた意見等を基に事業計画の素案のたたき台を作成した。素案は、各部会で議論いただいた今後の幼児期の教育・保育や地域子ども・子育て支援事業の確保方策、発達に係る支援についても盛り込み作成している。限られた時間であるが、議論いただき意見を賜りたい。</p>

事務局	<p>2 委員の紹介</p> <p>出雲市幼稚園 PTA 連合会の会長の交代に伴う委員変更を報告する。 現在 20 名中 17 名の出席で定足数を満たしている。また、本会議は公開で進める。</p>
肥後功一会長	<p>3 あいさつ</p> <p>先般、幼稚園の先生の研修会ということで富山県教委から話があったので、公立幼稚園の先生方かと思っで行った。しかしながら、そうではなく富山県は私立幼稚園の園児が 7 割、公立が 3 割ということで、公立と私立が一緒の 220 名集められた研修会であった。事務局は県教委が担われており、10 年以上続いているとのことであった。各地の研修会に今まで出かけさせていただいているが、公・私を越えて、あるいは保・幼を越えて研修会が進められているということを経験している。この子ども・子育て会議も、いよいよ各部会での報告を受けながら支援事業計画について、議論をまとめていく段階になったと思う。限られた時間ではあるが、様々なご意見をいただき、市の子ども・子育て支援事業計画が充実したものになるようお願いして会を始めたい。</p>
肥後功一会長	<p>4 議事</p> <p>(1) 各部会の協議状況について（報告）【資料 1】</p> <p><幼稚園・保育所課題等検討部会 報告></p> <p>第 3 回部会を 7 月 11 日に、第 4 回部会を 8 月 6 日に開催した。「(1)報告事項」については割愛させていただき、「(2)協議事項」をご覧いただきたい。</p> <p>第 3 回部会について、市立幼稚園の今後のあり方ということで議論を深めた。2 つの考え方があって、1 つは、特別な支援を要する園児については市立幼稚園の 1 つのミッションであろうということを確認したところである。もう 1 つには、地域によっては市立幼稚園を認定こども園化していく、あるいはそれを民間にお願いするということが地域の子育て環境を良くする可能性があるという意見があった。それから、保育料の設定の考え方について議論をした。今日新聞にも出たように、市の保育料の設定ということで、第 3 子以降の保育料の無料化について、基本的には見直しを行う方向で進めるということを確認した。そして、幼稚園の保育料、保育所の保育料については、国の基準よりも低い方向で設定するという、応能負担の考えを導入するという、幼保施設にかかわらず整合性の取れた金額の設定を目指すということ、幼稚園についても私立か公立かを問わずに同額に設定するということについて確認した。今回、事業計画をまとめるにあたり、一番基本となる議論は「量の見込み」と「確保方策」ということであるが、これについては第 4 回部会に先送りとなったの</p>

で、第4回の報告に移らせていただく。

「量の見込み」と「確保方策」ということで、幼稚園、保育所、認定こども園、それぞれの子どもについて、ニーズ量と供給量がどうかということについての「量の見込み」「確保方策」を検討してほしいという話だった。計画の第4章のところで具体的に記述してある。そして、冒頭の挨拶で申しあげたとおり、乳児期から幼児期、学校に上がるまでの教育の質の向上ということをどう考えるかということについて、かなり本質的なところの議論をさせていただいた。ちょうど市では、保幼小連携の接続カリキュラムというものが策定されたところで、その説明もあったが、そのカリキュラムは5歳児の後半のことを課題としており、5歳児から急に保幼小の連携をしてもどうかということもあり、その手前のところから、まず先生の資質をどのように向上させていくのか、あるいは家庭とどう連携して意思疎通を進めていくべきかということについて議論をした。それぞれの内容が計画の素案に盛り込まれているので、確認いただきたい。

<社会養護検討部会 報告>

第4回の部会を7月22日に開催した。

議事1であるが、「虐待のない明るい出雲市のための切れ目のない支援」ということで、第3回までの部会でいただいた子育て支援に係るご意見をまとめて確認した。

次に議事2であるが、「量の見込み、及び提供体制の確保の内容とその実施時期」について確認した。まず、「放課後児童健全育成事業の量の見込み」に関しては第3回において確認していたが、変更があったため再度確認を行った。続いて、「提供体制の確保の方策とその実施時期」については、既に確認を終えている母子保健3事業と国から詳細が示されていない事業を除いた全事業について確認を行った。

次に議事3であるが、「その他」としてたくさんのご意見をいただいた。子育て支援に関する事業や地域とつながりのある子育て支援に関して自由意見をいただいた。内容は記載していないが、いただいた意見を若干紹介する。利用者支援事業については、「ワンストップ化は支援として有効であるが、一方、コーディネーター自身の知識や経験、調整力が大事である」との意見を頂戴した。子育て短期支援事業については、「育児支援的な利用が最もしやすいような価格の設定が必要ではないか」との意見に対して「安易な利用は好ましくない」との意見もあった。また、里親の利用促進について意見をいただいた。ファミリーサポートセンター事業については、まかせて会員をいかに拡大するかが問題である一方、個人の会員間でサービスを提供するという事業形態により生じる責任の所在の問題が提起された。これに関しては「利用の適切な審査や保険への加入、会員の研修の充実」が挙げられた。その他、子育て支援全般の意見として、「支援の必要な人に制度の情報をいかに届けるか」とか、「各種制度

齋藤茂子部会長

の利用料金や実施する時間帯の設定をより利用し易くすることについての意見があった。地域の在り方に関しては、弱体化が進む中、ボランティアの成り立つ地域の活動に対しての理解が不足しているので広報や啓発をしっかりと行ってはどうかという意見や、子どもに関する課題は地域の課題であると認識し、行政と地域がタイアップして支援してはどうかという意見もあった。その一方で、地域の見守り活動を通して子どもが見守られていることが実感でき、地域の活動に自分も参加するようになったという話もあった。その他、授業料が払えないとか、弟や妹の養育費が払えないとか、そういう理由で子どもが学校を仕方なくやめていくというような貧困の実態も見受けられるという話もあった。支援が必要な人の情報を支援者にしっかりと情報提供して共有することが必要との意見もあった。そのためには支援する人をしっかりと開示することも重要だということで、このような意見をたくさんいただいた。

<発達支援検討部会 報告>

原 広治部会長

発達支援検討部会は、これまで5回の会議をしており、今日は第4回、5回部会の報告をする。3回目までのところで、「気づく」あるいは「支える」というテーマごとの検討を行い、4回目ではそれらの支援を「つなぐ」というテーマで討議した。その内容が資料に書いている3点であるが、一つ目の「健診や在宅から幼稚園・保育所へのつなぎ」に関しては、これまでも保健師がキーパーソンとなって動いており、これがとても重要であるので更なる役どころをお願いしたいということ。それから、健診と園の連携ができるような仕組みがあると良いという意見があった。二つ目の「幼稚園・保育所における内部のつなぎや外部とのつなぎ」であるが、これは当然ながら園内の体制づくりという部分をもう少し検討していく必要があるし、例えば学校や幼稚園には置いてある特別支援教育のコーディネーターを、全ての保育所にも指名していただき、連携のための窓口を設置していく必要があるのではないかとということ。それと同時に、保育所あるいは幼稚園の先生方の相談の窓口でもあり、保護者からの相談の窓口でもある、両者の相談をするところがあると良いという意見が多かった。三つ目の「幼稚園・保育所から就学へのつなぎ」についてであるが、これは、これまでも様々なつなぎがあるが、先ほど会長の話にもあったが、就学前からではなく、より早くからの気づきがあって、そして支えがあって、具体的な支援をしていくということがあるうえに、それを各学校へつないでいくというような仕組みづくりが今後も求められるということである。それから、子どもの相談が継続的に学校へとつながっていくところが今一つ弱く、どこかで切れている可能性がある、あるいは弱まっている可能性があるので、そのあたりの仕組みづくりも必要ではないかという意見があった。

この3つのテーマを受けた後、事業計画についての協議を行い、今回提案していた

	<p>だいたことを踏まえ、第5回の会合で素案づくりをした。今日の資料2の24ページからの計画素案に盛り込まれているので具体についてはご覧いただきたい。</p>
肥後功一会長	<p>3つの部会から、議論の概略とともに柱建て等について聞いた。具体的中身は確認いただければ良いが、それぞれの委員が部会に参加いただいた中で、こういうこともあったのではないかとということがあれば発言いただきたい。あるいは、他の部会についての質問があればいただきたい。</p>
福間泰正委員	<p>会長が報告された部会の保育料のことについて、今日の新聞に掲載されていた。こうして検討している中での記事であり、来年の4月から3子以降の保育料無料化を見直すという、決まったような記事であったが、そのあたりの関係はどうなっているのか。</p>
肥後功一会長	<p>そういうことを決める部会ではもちろんないので、議論したということを紹介した。経緯については事務局から説明いただく。</p>
子育て調整監	<p>市議会の文教厚生委員会協議会で、第3回幼保部会の資料について説明した。この資料は既に公開されており、議会に対しては子ども・子育て会議の進捗状況や、意見をいただいていることについて説明をしたところである。協議会そのものが公開で開催され、新聞記者も入室しており、第3回幼保部会の資料をもって記事にしたということである。協議会でそういう説明があったという記事の内容であった。市ではまだ方針決定をしていないので、今後議会に諮りながら、保育料等については方針決定をするという流れである。</p>
福間泰正委員	<p>部会の中で意見があったことについていくらか書いてあったが、そういう意見についての取り扱いはどうか。いくらこの場で議論しても、ほぼ移行する考えということで、そのあたりの意見が反映しているのかどうか、今朝新聞記事を見て思った。</p>
子育て調整監	<p>幼保部会の会議録については公開しており、その一部をもってあのような表現になっていたと思うが、子育て支援の視点から前向きな意見が多くあり、トータルでは部会でも理解をいただいた意見だったと思う。</p>
肥後功一会長	<p>要約の仕方が間違っているかもしれないが、市の財政状況に鑑みて、その施策が必要かどうかという判断は別のところでされると思うが、私どもの部会では子育てを支援するという観点から、第3子以降保育料無料化を止めるのであれば、全体の保育料</p>

肥後功一会長	<p>軽減に回すという考え方も当然あるわけで、そのあたりをどのように市民へ還元していくかということをもっと積極的に考えるべきではないかという議論であったように思う。</p> <p>(2) 出雲市子ども・子育て支援事業計画（素案）について（協議）</p> <p>全体の構成を見ていくために目次をご覧ください。第1章は「計画策定にあたって」ということである。前回の資料は第2章に統計の部分が出ていて、出雲市の状況がどうかということになっていたが、今回それは資料編ということで最後に回してある。第2章に「計画の基本的な考え方」が出てくる。一番の本体部分が第3章の「施策内容」ということで、これがローマ数字のⅠからⅤまでに分かれている。後からご覧くださいが、大きくはⅠからⅢまでと、Ⅳ・Ⅴの2つに分かれている。第4章が国から指定されている「量の見込み・確保方策」について、5か年でどのように達成するのかということについて、ニーズ調査に基づく需給の数字などが記載される大事な章で、これがある意味で実質の本体となる。第5章は計画全体の進行管理である。</p>
事務局	<p>【資料2 第1章の説明】</p>
肥後功一会長	<p>第1章は、計画の国の施策の中での位置づけを中心に説明的に書かれている。必要な内容は盛り込まれていると思う。分かり易さとか、冒頭の計画策定の趣旨について文章としてこういうものがあつた方がよいということなどあれば何う。</p>
吾郷弘司委員	<p>4ページの視点の2番目。ここは親への支援や親の自立に関わることで、親という言葉がたくさん使われている。学校や児童クラブで保護者に関わっているが、ここでいう親というのをどの範囲で受け止めていくのか、というのも3ページの基本理念の第3条では「父母その他の保護者」という表記がしてある。親という表現で済まして良いものか、親の定義は何かということに繋がるわけで、親と言った時に父や母を思うが、いない子どももたくさんいるわけで、どうか。</p>
肥後功一会長	<p>親よりも保護者という言葉遣いが施策の中では多い。保護者支援や保護者のという言葉遣いが中心になると思うが、そのあたりの用語についてはどうか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>
肥後功一会長	<p>通常言葉遣いとして親を使う場合もあるから、その場合は良いとして、基本的な使い方としては保護者を中心に記述することとしてまとめたい。日本語のセンスか</p>

事務局	<p>ら、親とした方が自然で誤解のない時は、親を使っても良いということで整理する。</p> <p>【資料 2 第 2 章 (P9~12) の説明】</p>
肥後功一会長	<p>子どもに「たち」をつけて使う場合と「子ども」だけで使う場合が混在していて、通常、子どもという言葉には複数を含めているので、「子どもたち」とする必要が無いような気がする。使い分けを決めてないのであれば、「子ども」で統一した方が良いと思われる。</p> <p>5つの基本目標のくぐりの1番目「子どもの発達と親子の成長」とあるが、後半部分は子どもの成長も含まれているので、前半の子どもの発達と、親子の成長の子どもの部分が重複している。</p> <p>基本目標Ⅲでは、「子育て」という言葉は定着しているが「子育て」という言葉は意外と定着しなかった。「子育て」というのは子どもが成長していくことを指し、「子育て」と「子育て」があるという論法で、以前にはそういう話が多かったが、結局「子育て」という言葉は、分かりにくい言葉として残ってしまい、子どもが成長していくことを「子育て」とは通常あまり言わないように思う。文章の中に「子育て」は出て来ないので、わざわざ分かりにくい言葉を使わなくても「子どもの育ちを」で良いと考える。</p> <p>気付いた点について、述べさせていただいたが、意見等はないか。</p>
委員	(意見なし)
事務局	<p>【資料 2 第 3 章 I ~ III (P13~29) の説明】</p>
肥後功一会長	<p>「I 育児力・教育力の向上」で、13ページから15ページについて見ていきたい。全体に係ることであるが、それぞれに「現状・課題」をまとめた後に、「めざす姿」が書かれている。この「めざす姿」の位置づけはどのようなところか。数値目標を立てるために柱にしているところが多いように思うが、「めざす姿」を置いている意味について説明いただきたい。</p>
事務局	<p>現状・課題から、将来的にこういう形になると良いということで「めざす姿」を置き、それに向かって対応を考えるという形で、流れを整理するために置いた。</p>
肥後功一会長	<p>5年後にこうなっていると良いということだろうが、めざすとなると誰がめざすのかが問題になるが、それについてはどうか。</p>

事務局	<p>本計画は、子どもとその家庭、地域、企業、関係機関、行政など子ども・子育てに関わる全ての個人及び団体を対象としており、それら全てがめざすものとする。</p>
肥後功一会長	<p>計画自体、市民が一体となって進めるべきものでもあるので、今の考え方で良いが、めざす姿という項目の位置づけを説明すると良いと思う。</p>
吾郷弘司委員	<p>13 ページの冒頭に「育児力・教育力の向上」とある。育児力と教育力はどう違うかという思いがある。1 番めが育児力の向上で、2 番めが家庭や地域の教育力の向上とある。育児力の向上というのは、家庭なのか保護者なのか、あるいは地域なのか、2 番に家庭や地域のという表記があるので、1 の育児力の向上というのは言葉が足りないかと思う。</p>
肥後功一会長	<p>1 番は保護者の育児力で、2 番はそれを支えていくということであろうが、今度は教育力となっている。</p> <p>育児力という言葉も、親の育児力の低下というように使うことはあるが、広く出回っている言葉ではない。経済の問題もあるので、そう簡単でなく、事務局で検討を願う。</p> <p>14 ページの「めざす姿」の文章で、「親子が地域の中で生活し」というのは、めざさなくても、あたり前のことで、むしろ、どう生活するかということ。下の文言を生かして「豊かな自然環境、教育環境の中で暮らしを楽しみ」ということになる。次に続く文章では、「あらゆる世代と交流」となっているが、あらゆる世代と交流するとなると大変になるので、「幅広い世代の人々と交流する」という意味合いだろうから、文言修正してはどうか。地域の自然環境や地域の教育環境を活かす中で、親子が人々と交流しながら暮らしていて、子どもの成長発達の段階に沿った学びができるということである。</p> <p>14 ページの(2)では、前の案には「PTAなどの研修会を企画し」という 2 行が入っていたが、それを削除した理由は何か。</p>
事務局	<p>家庭や地域の教育力の向上に合わないということで削った。</p>
斎藤茂子副会長	<p>13 ページの冒頭から 3 行目に「保健・福祉など関係分野」とあるが、ここに教育を入れると良いと思う。</p>
肥後功一会長	<p>同じように感じていた。保健・福祉に教育を入れると良いと思う。</p>

高橋悦子委員	<p>13 ページの「めざす姿」に、「保護者が地域から孤立することなく、気軽に相談・支援を求めることができる」とあるが、「相談・支援を求める」というところが気にかかる。どうしようと困って求めるというイメージがあるが、保護者からすると気軽に相談や支援ができる場が身近にあるような環境が望ましいかと思う。</p>
肥後功一会長	<p>「保護者が地域から孤立することなく、相談・支援を求める場が身近にある」という内容にしてはどうか。</p>
肥後功一会長	<p>次に「Ⅱ 親子の心とからだの健康づくり」ということで、p16～20 について意見はないか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>
肥後功一会長	<p>先に進んで、「Ⅲ 子どもの育ちを支える教育・保育の推進」ということで、教育と保育の順番をどう使うかということが気になる。発達の順番からいくと保育が先で教育は後となる。2 行目も「乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる大切な時期」だと書いてあるので、乳幼児期全体のことをいうのであれば、「保育・教育」という順番に揃えた方が良いように思う。</p>
原 広治部会長	<p>22 ページの(4)特別な支援が必要な子どもへの対応のところ、「障がいを抱える」という言葉があったり、23 ページでは「障がいを持つ」とある。他では「障がいのある」という言い方をしているということを含めて、「ある」に統一したら良いということと、障がいだけでなく病気もあるわけで、「等」という言葉も入れていただきたい。</p> <p>さらに、23 ページの(5)の 1)では、比較的重度の障がいのある子どもの受け入れ体制を整えるとインクルーシブ教育が実施されるというような内容になっているが、インクルーシブ教育自体、障がいの重い軽いではないので不適切だと思う。</p>
肥後功一会長	<p>障がい児の保育・教育について、用語は慎重に表記すべきであり、通常は「障がいのある」という言葉を使う。22 ページの(4)の 5 行目も、「障がいのある子どもと無い子どもが」となると、障がいのある子どもと無い子どもの 2 種類に子どもが分けられるという印象を持ってしまうので、「障がいの有無に関わらず全ての子どもが共に成長すること」とすると良いと思う。</p>

肥後功一会長	<p>(5)は、市立幼稚園の今後のあり方の検討・実施で大事なところである。特別支援教育の拠点園を拡充していくということ、一定程度の集団規模を維持するという、学級数1以下の状態が2年続いた園は閉園対象とすること、それから園児数が減少している市立幼稚園のうち、今後も減少が懸念される園は、一定条件のもと認可保育所を運営している社会福祉法人等に譲渡して認定こども園化を図ることが記述されている。</p>
板倉明弘委員	<p>市立幼稚園の今後のあり方については、議会の中でも大きく議論されている。私的な考えであるが、認定こども園化は、民間という方向性がこの文章では明らかになっている。市の現状は、幼稚園は公立がほとんどで、2園ある私立は既に認定こども園に移行された。逆に、保育所はほとんどが民営という中で、現状は、幼稚園は定員の半分以下、いわゆる空き教室がたくさん出ている。認可保育所は増加して待機児童も出ているという現状の中で、なんとかこのアンバランスを解決できないか。この子ども・子育ての新たな制度の中で考えていかないと、いつまでもこのような状況は好ましくないという思いで議会の方でも議論している。今回このようなあり方検討という考え方に基づいて検討実施するという文言については、いかがなものかと思う。新制度は来年4月からであるが、新制度が始まってからの5年間の中でもいろいろ議論しながら進められるのではないか。公立の認定こども園というものも出てくるかもしれないし、地域によって保育所の場所、また幼稚園の状況によって、3)のような場所も当然あってよいと思うが、この「あり方検討に基づいて」という文言はとてもひっかかる。財政措置のことも考えて行かないといけませんが、文教厚生委員会で視察した習志野市では、公立の認定こども園を既に行政として取り組む方向であった。地域で状況は違うので、これが全て正しいとは思わないが、保幼小連携ではいろいろな情報共有もあるが、空いている幼稚園を活用しながら互いに連携できないだろうか。これは保育協議会とも十分に協議していかないといけない課題であるが、そういう課題がたくさんある中で、今回、このような方向性、素案とはいうが計画が出されていることには、少し懸念する部分がある。ではどうするのかと言われると、これは大きな問題であるのでいろいろな関係の方と協議しないといけないが、現状からもっと考えて行かないといけない問題ではないかと思う。</p>
西 郁郎委員	<p>元々の幼保一元化というのは、だんだん幼稚園へ行く子どもが減って保育所へ行く子どもが増えるということが出てきた中で、施設の有効利用ということも含めての幼保一元化であったのであろうと思うが、だんだんと進む中で国の方向も怪しくなってきたように感じている。要するに認定こども園になっても、ならなくても良いというようなことになったので、ますます話がややこしくなるし、我々保育所に対して</p>

は公定価格が出たが決まったものでもなくて、実際に動き出すのは平成 29 年度からというような話になると、どういう方向に進んだらよいのかということが分からない状況である。

福岡の知人に聞いた話で、福岡市の場合は、全て認定こども園化するようにと行政が言っているようである。有無を言わず全て認定こども園化するということを出している市町村もあるようである。では今、認定こども園化したら保育所の幼稚園部分へ子どもが行くのかどうか、幼稚園枠としては完全に余っているわけであるので。その辺りも含めて、判断が非常に難しいところである。市から認定こども園化してほしいということも言われていない。そのため、余計に判断が難しいところもある。幼稚園は余っている、保育所も年度後半になると待機児童が出てくるので、その辺りは何とかしないといけない問題である。

肥後功一会長

理想というか、考え方としては、基本的には親が働いている、働いていないということに関わらず、親の就労状況や家庭の状況に合わせて、働いている家庭の子どもも働いていない家庭の子どもも同じ施設に入れることができる、つまり認定こども園化して幼保が分かれていない状態を作ることの方が、保育・教育の施設としては機能すると思う。親がその時々状況に合わせて、子どもを預ける時間が短時間で良い人もいるし長時間預けないといけない人もいる、その中で当然のことながら幼児教育の質を高めていかないといけない。これが基本的なスタンスであると思うが、認定こども園について、国においてそれに相応しい状況がつけられる予算が付くのかどうかは今分からない。そこへ向かって一気に進んで良いかが分かり難い状況にあるため、おそらく各施設が足踏みをしているというのが現状だと思う。その中で、ここでは公立の幼稚園を認定こども園化すると同時に民営化することが書かれているが、その方向性で良いのかどうか、皆さんから意見として出されている。

行政としては、潤沢な予算があるわけではないので民間に任せられるものは民間にという考え方をとっているが、もちろん様々な議論がある。今のご指摘のとおりである。そのあたりをどう考えるか、ここで決めかねるところではあるが、方向性としては、「出雲市の幼稚園のあり方検討に係る考え方について」に基づいてという記述があるので、そうすると 3)に書かれているような方向になる。元々3)に書かれていたことは、小規模化が懸念されてこのままでは維持が難しいようなところについては、近隣に保育施設がある場合は一体的に運営していく方が良い施設になるのではないかというようなことが書いてあった。地域が見えた書き方がしてある場合は良いが、原則化してしまうと危ない面もあるのではないかとのご指摘でもあろうかと思う。

このことについて、様々な角度からご意見いただきたいと思うがいかがか。

羽根田紀幸委員	<p>小児科医の立場から言うと、幼稚園は学校保健法の適用で、例えばインフルエンザが流行った時など、ある程度思ったことが言えるが、保育所はそうではない。学校保健法に準じて対処するようになっているが、絶対的なものではない。流行する病気が流行った時に、保育所は閉められない、幼稚園は閉鎖も可能で、その辺りが全然違う。</p> <p>76 ページに保育所と幼稚園の定員の状況が書いてあるが、この流れはもう誰がどうやっても止められないと思うので、保育所に行く子どもが多くなれば病気で行けなくなった時にどうするのかという対策を立てておかないと、子どもの健康を守るという意味ではなかなか上手くいかなくなると感じる。</p> <p>病児・病後児保育があるが、言葉では同じようで全く違う。病児となると、かなり手が掛かる。スタッフも予算も必要となる。全国どこの市町村でも病児としてやっているところは、小児科医がやっているところが多いが、行政からの手当が無いととてもやって行けない。その辺りの手当を十分出ているところしか、まだ機能していないという現状があると思うので、今後方向性として病児保育を充実させるとなると、相当な覚悟で予算を持ってきてもらわないとできないと感じる。</p>
肥後功一会長	<p>市立幼稚園のあり方というよりも、今後保育所が拡大していくことになったら、保育所に子どもを預けている親のサポート、あるいは休園をしないといけない状況に追い込まれるような感染症の流行への対策についての意見であった。今でも病児であるにも関わらず病後児であるといつて預けざるを得ないような状況もあるという中で、むしろこれは 30 ページ以降の「仕事と子育ての両立支援」の中で話した方が良い内容かもしれない。そういう時は親がゆっくり仕事を休んで子どもを家庭で看られるような体制を社会で作っていくことが大切ということだと考える。子どもをどう預かるかという体制に大きな予算を投じることより、むしろ安心して休めるような体制を作っていくことが本質的な解決になるのではと思う。</p> <p>保育所側から、意見を聞きたいがどうか。</p>
西 郁郎委員	<p>病児は保育所で預かれないので、病後児しかできていないが、保育所でも放置できない問題であると考えている。</p>
肥後功一会長	<p>今後保育所利用が減っていくということは無いので、そういう意味でセーフティネットをどうするかということは検討しなくてはならないので、非常に重要と思う。そのことはどこかに織り込んでいくべき視点として押さえておきたい。</p>
廣戸悦子委員	<p>幼稚園、保育所の話に戻るが、幼稚園・保育所課題等検討部会では幼稚園関係者と保育所関係者が参加して話し合いをしていると思うが、地元のことを言えば、幼稚園</p>

	<p>はだんだん人数が減ってきて、地区内にある保育所はどんどん子どもの数が増えていって入れない状態にある。幼稚園での延長保育実施や、小学校へ行くまでの幼稚園と保育所との良い連携ができないかということ幼稚園側の方からよく聞くようになった。というのも、今まであまり幼稚園へ出かけることは無かったが、去年から幼稚園も、小学校の地域学校運営理事会と同じように幼稚園運営協議会とって地域の皆さんが集まって話をする会ができて、その中で、幼稚園で困っている話が出るようになり、地域も分かってきたところである。</p>
肥後功一会長	<p>出雲市といっても広いので、中心部は保幼小連携とって小学校とその地域の保育所・幼稚園が連携しても、その小学校に来る子どもはその他の地域からの方が多くなったりする。あまり意味がないとは言わないが連携をすることの意義には限界があると思われる。逆に、子どもの数が少ない地域では、1つの保育所・幼稚園から1つの小学校へ行くというケースが多くなる。よくあることだが、どちらへ就園するかということ巡って、1人の子どもの手を保育所と幼稚園とが引っ張るといようなことが、子どもの人数が少ない地域では起こってしまいがちになる。だからこそ、子どもの人数が少ない地域では、保とか幼とか言わずに1つの地域に1つの一体的に運営できるものとしておかないと、安心して親がそこへ預けられないという話がまず基本にあると思う。そのようなこともあり、本来は一元化することが望ましい。ただ、国の制度や補助金の関係で簡単にスキームができない状況があるので、その状況を睨みながら進めるということになる。</p>
布野和弘委員	<p>この幼稚園と保育所の問題に私も長い間関わってきた。いろいろな問題があるが、市として、この子育てに関する事でどのようにしたら良いのか、何か夢のある、保護者に出雲市での子育てはこんなに楽しいですよというビジョンがあると良いと思ってきた。子どもが少ない中で、取り合いをするようなことは良くないと思うし、やはり地域で特色あるものを目指して、保育と教育がこれからはもっと交流をしてほしい。それに絡んで小学校が良い具合に、こういった保育と教育に絡めて、小学校に上がったときの教育をこのように持っていくというような特色のあるものを作ってほしい。それから、いつも言っているが、0歳児から保育所に預けることについて疑問を感じている。お母さんとしてお腹の中で十数か月育てて生まれた途端に、あるいは数か月した後に保育所へ出すというのはどうなのだろうか。1歳の誕生日を迎えるまでは子どもの特性を知るといっても親に育ててほしいと思う。また、保育所は何歳から何歳までと、年齢を区切るのはどうかとも思うが、家庭の状況に応じて3歳までは保育所へ預けても、3歳に上がれば幼稚園へと年齢で区切ることも必要かと思う。また、市立幼稚園というのは、地域がある程度、昔から期成同盟会を作って援助して</p>

<p>肥後功一会長</p>	<p>いるという面があった。そういう援助は今はないが、幼稚園を新しく建てるにしても運動場を広くするにしても、地域の財産として、もう少し地域の意見が入った施設にしてもらいたいと思う。それ故に、今後パブリックコメントがあるので意見を言ってもらいたいと思っている。今、保護者に人気があるのは、特色を持った保育所や幼稚園である。特化したところに子どもを預けて英才的な教育や保育をしてほしいという希望があるように感じている。それを各園が全部する必要はないが地域の個性でやってほしいと思う。幼稚園が閉園になると地域へのダメージが大きいと思うので、このように書き込まれていくと地域の住民としては不安材料となる。</p> <p>施設をどうしていくべきかという判断は、時期としてはもう遅い。今から検討して皆で考えるという話ではない。音を立てて進んでいく少子化の現状、市が潤沢な財源を持っているわけでない中、それぞれの園を支えている人件費をどうすべきかというこの議論はここではなくて違う所でしっかりしてもらわなければならないと思う。幼稚園を今までのように地域で維持して、少ない人数でも入園させて、3歳になればみんな幼稚園へ入れるという議論が成り立つのであれば良いが、そうでない限りは、ある意味では市民のニーズが既に選んでしまっているといえる。その中で今後どうしていくのかということが今の状況である。それでも税金で支えていくということであれば、現在いくらぐらい経費を投じて支えているのかという数字もそろそろ出して検討してはどうか。園児1人当たりどのぐらいの税金が掛かっているのかということをも明らかにした上で、そういった議論が成り立つのかどうかといったことを判断いただく必要があるかもしれない。そういう厳しい時期に来ているということをつかんだ上で議論いただければと思う。</p>
<p>原 成充委員</p>	<p>反論するわけではないが、基礎の段階へ話が戻ってしまったように感じたので、あえて出雲市認可保育所理事長会の立場で言わせてもらおうと、会長が言うようにもうその議論をする時代は過ぎたのだらうと思う。したがって理事長会という経営する立場からしても、保育所の経営の問題は心配していただかなくて結構だと、これは時代の流れの中で考えるしかないということを通認識にしている。先般福岡へ行ったが、レベルが全然違う。出雲市内の保育所であろうが幼稚園であろうが、福岡の幼稚園、保育所のレベルには太刀打ちできない。そのぐらいレベルが高い。したがって、我々が少々努力してもそこまで追いつくのは大変だろうと思った。そうだとするならば、出雲は出雲らしいレベルの中で保育所、幼稚園がどうあるべきか、経営あるいは財政の問題も含めて、議論をしなくてはならない。先ほど議論をする時期はもう過ぎたというような発言があったが、そういう段階だらうと思う。保育協議会の現場職員も経営者側もそうであるが、とにかく行政が早く、どうあるべきか、あってほしいか、</p>

	<p>その考えを開示すべきだと前からずっと言ってきた。したがって、今回まとめられた内容は非常に真つ当なものだと思う。将来どういう方向へ向かって行くのかという可能性を秘めた文章、あるいはある程度は決めなくてはならない内容も含めた文章、上手にまとめられたと思う。ただ、日本語の表現は難しいと感じながら先ほどから聞いていた。表現方法は別として、良い方向へまとめてもらいつつあると感じている。</p>
<p>布野和弘委員</p>	<p>会長の時遅しという言葉聞いて、やはり遅いのかという気はするが、そうであるなら早急に、幼稚園と保育所の両者が喧々諤々とやるべき。オブザーバーでも良いので民間も入って、結局どういうことを考えているかということ公表すべきだし、聞きたい。ずっと関わってきた中で、兄弟姉妹が離れ離れの保育所へ通っているとか、お母さんが勤め先のために朝早くから子どもを起こして保育所へ預けて慌ただしくしているといったことが本当に子育てに必要なのかどうか、もしそうであるならば、地域にある保育所と幼稚園を利用して、地域の人を上手くボランティアで使って、お母さんが送迎で大変だったら地域のそういうところがフォローしていくといろいろなことがまだまだできるはずである。地域の特質で、そういう地域であれば地域の保育所に預けるといって親も出てくるはず。わざわざ遠方まで行って、送迎だけでも大変な時間を掛けて、もし仕事の都合で遅くなるなら「30分遅れます」と電話を入れなくてはいけない。そんな時間の無駄をするのであれば、もう少しお互いが肩を楽にして、喧々諤々議論をして、やはり子どものために出雲で大事なものは保育と教育を、保育所と幼稚園の先生の立場と、経営者側とやってもらって、それを見て行政なり議会が判断するべきではないか。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>そのことがあって、(5)の3)の書き方になっている。安心して子どもを預けて子育てができるところが身近にあるということがないと、親が長距離をかけて預けるといって起きてしまう。それから、地域の中で質の高い教育、保育ができる親に思ってもらえるような場所を作っていくことが必要で、それが幼稚園なのか保育所なのかということを議論する時代はもう終わっていて、地域で子どもの手を引っ張らなくても、1つの施設に地域の人が皆預けて、そこから小学校へ上がっていくという体制をつくっていくべきということが3)に書かれている。ただ、具体的取組の①については、「出雲市の幼稚園のあり方検討に係る考え方について」をふまえた検討であって、「基づいた」という表現は直してはどうか。</p> <p>それから22ページの(2)保幼小連携教育の推進というところが、実は一番大切なところで、地域でよく話し合っという言葉の中身としては、基本的に教育と保育が連携して取り組んでいくということが大事なので、このところはさらっと記述してあるが、中身としては職員交流とか合同研修会とか、そういう所を充実していなくて</p>

<p>布野和弘委員</p>	<p>はならないという話として考えれば良いと思う。</p> <p>保育所の定員に関して、これまでの定員検討委員会では定員を最大 200 人と決めてきた。今後の課題ではあるが、200 人の子どもを預かって保育ということが本当に良いのか、特色ある保育をしているということで規模が大きいのだと思うが、その辺り地域と密接にもう少し考えていただいて、適正な保育の人数は、個人的な意見では 150 人くらいまでのところが良いのではないかと思います。その辺りも今後検討いただきたい。</p>
<p>板倉明弘委員</p>	<p>幼稚園、保育所の状況を聞かせていただいたが、文教厚生委員会では認可保育所の所長会や幼稚園の園長会との意見交換を昨年から行っている。一番のテーマは今回の子ども・子育て支援事業計画であり、いかに中に入って行って連携をするのかというところが我々に課せられた大きな課題であると思っている。「行政に任せる」という他の委員の発言もあったので、コーディネートというわけにはいかないが、しっかり両者の連携が上手くいくような形で、地域の幼児教育の方向性を出していかなくてはならないという思いでいる。</p>
<p>福代秀洋委員</p>	<p>どうあるべきかをしっかりと踏まえて、そこに向けて行政としても誘導していくことがないと、親のニーズに任せますという施策であるとコントロールがなかなかできないし、子どもにとって、あるいは子育てにとって良い方向に行かない部分が出てくるのではないかと思います。</p> <p>個人的な印象であるが、近年、どちらかという保育所に誘導する施策がとられてきたように感じる。そういった中で今のような幼稚園を巡る状況が出てきている。いろいろな議論がある中で、(5)の 2)と 3)は、具体的な数字、対象を決めて書いて良いのかと疑問に思う。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>具体的な数値をあげずに、政策誘導することが可能かということについて、たずねたい。</p>
<p>福代秀洋委員</p>	<p>政策を決める時には具体的な数字をあげなければいけないが、ただ、この場で学級数 1 以下 2 年閉園と決めて本当に良いのかどうか。認可保育所を運営する社会福祉法人等に譲渡し、認定子ども園化を図るという 1 本の道筋だけを方針として出してしまっているのかということについては、議論があるのではないかと。</p>
<p>原 成充委員</p>	<p>市民の立場からすれば、数が減ってきた場合の閉園などの考え方は、既に市議会は</p>

肥後功一会長	承認されている事項だと受け止めているのが大半。したがって、この時期にいかがなものかと言われることについては疑問に思う。 政策的な問題なので、市がここに数字を挙げて来るということは、当然ながら一定程度議会の理解を得ているということが前提になってくる。そこまで議会ではコンセンサスが得られていないので、数字をやめてはどうかという発言であったように思う。この辺りは非常に微妙なところで、市としてはどうか。
子育て調整監	具体的取組に書かれている「出雲市の幼稚園のあり方検討に係る考え方について」は今年の3月に議会に対し教育委員会から示した内容のことである。これを踏まえて幼保部会で話し合いをした。その内容が(5)の1)、2)、3)に書いてあるが、議会から大きな反対があり、向かうべき方向ではないとの整理がされたとは認識していない。幼保部会で話が出たのは、子どもの立場に立った考え方が必要ということ。今、閉園についての基本的考え方の数字が出ているが、これは本当に園児の少ない園に対して出た方向性である。先ほど会長に整理をしていただいたが、「これに基づいた」ではなく、「これを踏まえて」検討・計画実施という言葉であればどうか。教育委員会が議会に示した考え方を承知していただいているのであれば、その内容を踏まえた書き方をさせていただきたい。園名は相応しくないので外し、その考え方に基づいた内容をここに載せている。
福代秀洋委員	この場合は議会と独立した場であるし、議会でこの説明は受けたが、議決したこともなく、今、議会でどういう結論になっているかについての整理ができていないが、話を聞いたという段階だと理解している。議会はこのことも含めて、この会で一定程度有識者の話を聞けるだろうという認識を持っている。
板倉明弘委員	同感である。
子育て調整監	補足すると、あくまでもこれは考え方ということで教育委員会が議会に対して示したものである。確かに、議案として出したものではない。その考え方に基づいて今後検討するという事なので、議会に対しては具体的に園名をもって議論することになるが、考え方そのものについては前に進む拠り所として載せたところである。
肥後功一会長	固定した目標を立てて数値を挙げてしまっていて、これ以下はやらない、これ以上は良いという内容を書くことが相応しいかという意見だったと思うので、「踏まえて検討する」という書き方で良いと思う。「学級数1以下の状態が2年続いた園は、閉園対

西 郁郎委員	<p>象とします。」という部分は「学級数 1 以下の状態が 2 年続いた園は、閉園対象とするなど、一定の基準を設けて検討します。」と書いてはどうか。何も基準を設けずに「今後検討します」と書くのは、何もしないような話なので、やはり 1 例としてこのような基準を設けることを書くと良いと考える。</p> <p>保幼小連携は学校単位でやっているはずなので、保育協議会としても大事なことであると認識している。</p>
肥後功一会長	<p>長い間、幼・保、公・私といった様々な枠組みを作って、この国は子育てしてきたので、今になってその制度的疲労や矛盾が一気に出て来ていると感じている。親が子どもを 0 歳で手放すのはいかなものかという話もあったが、経済的な事情その他様々な状況を抱えながら子育てをしているので、それを社会全体でどう支援していくのか。もちろん、ゆっくり子育てを楽しんでもらえるようになると一番良いが、そのことも難しい状況である。</p> <p>幼稚園の先生方への研修講座でお話しさせていただくことが増えている。その背景には、従来の幼稚園教育が前提してきた 3 歳入園までの育ちの様子がずいぶん変化していることがある。これまでの幼稚園教育を継続していれば、小学校教育の内容に上手く接続していくとは言えない現場の実感があり、ではどうということが 3 歳までに行われていなければならないか、すなわち 3 歳までの 0 歳、1 歳、2 歳のあり方、その重要性が注目されているのだと思う。そういう意味で、家庭で子育てしている人にも支援が必要であるし、保育所も 0 歳、1 歳、2 歳の保育内容をしっかり見直し、質の高い養護と教育を一体的に進めていく必要がある。同じ 3 歳、4 歳、5 歳の子どもが保育所に行っても幼稚園に通っていても、同じような高い質の教育が受けられるよう努力することが求められている。それを限られた予算でどうやっていくのかということが議論になっているので、その大きな枠組みをここでどう設置するのか。本日はそこでたくさん時間を使ったが、本質的かつ具体的な事例を挙げてもらいながら議論ができた。ここで決めてしまうということよりも、枠組みとしては出雲で生まれた 0 歳から 6 歳までの子どもたちが、就学前にできるだけ質の高い保育・教育が受けられるようにということを目指して、どういう枠組を市民の皆さまに示したら良いかということについて議論できたと思う。</p> <p>前に進めるが、24 ページで「発達に係る支援」と書いてある場合と「発達支援」と書いてある場合があるが、使い分けしているのか。</p> <p>使い分けはない。同じような意味合いで使っているので、修正したい。</p>
事務局	

肥後功一会長	「係る」は事務的な感じがするので、「発達への支援」とか「発達の支援」と書く と良い。単語として使う時には「発達支援」でも良い。
板倉明弘委員	28 ページの「豊かな心の育成」の項目は、とても重要なことだと思う。具体的取 組の中で、市内小学校の中で赤ちゃん登校日事業をやっている。限られた学校である が、子どもの人間形成、コミュニケーション力を上げるのに有効な事業だと思い、地 域やボランティア団体と一緒に取り組んでいる。具体的な取組に入れてはどうか、そ うするとさらにそういう取組をする小学校も増えるのではないか。
事務局	赤ちゃん登校日の取組は、小学生が赤ちゃんと接する姿が微笑ましく、心の教育に 最適とみている。どうすれば今後広がっていくのか、実施については関係課との協議 が必要であるが、心を耕すのに効果的な取り組みだと認識している。
肥後功一委員	全市で予算を付けることができるか。
板倉明弘委員	大きな課題である。
肥後功一会長	「児童生徒の心を揺さぶる生命の教育を」と書いてあるところの、具体的事例とし て挙げることは可能かと思う。
布野和弘委員	赤ちゃん登校日事業に関わったが、単発で終わってしまっている。良い事業なので 継続してやってほしいが、赤ちゃんを集めるのが大変だということを実感している。 そこで、地区に月 1 回の 0 歳児のサロンもあるので、学校との兼ね合いもあるが、6 年生を対象として定期的に 5 人とか 10 人をサロンに連れて行って赤ちゃんやそのお 母さんとコミュニケーションをとるといような企画はどうか。我々が情報を持って いても、学校の授業に良いのかどうか、教育委員会がどう思っているのか分らない ので提案してほしい。
事務局	多方面から検討していきたい。
肥後功一会長	市全体の子ども・子育て支援事業計画に何を書き込むかということで意見はない か。
原 広治部会長	27 ページの 1)に「食育担当指導主事」とあるが、教育委員会に置かれている指導 主事をイメージするものか。

事務局	<p>表現については再度検討する。指導主事ではなく、各学校に担当する教員を置くという趣旨であるので訂正する。</p>
原 広治部会長	<p>29 ページの(3)に「保育所・幼稚園・小学校・中学校」とあるが、ここに認定こども園を入れると良い。順番もページによってばらつきがあるので統一されたい。</p>
肥後功一会長	<p>会議の予定時間が迫っている。第4章は具体的な数値目標が挙げられている重要な部分で、全然見ないで終わるわけにはいかない。再度、会議を開催することで良いか。</p>
委員	<p>(了承)</p>
肥後功一会長	<p>以上で、進行を事務局に返す。</p>
事務局	<p>(3) その他</p> <p>本日いただいた意見をもとに、素案の修正をして次回に提案する。</p> <p>今後のスケジュールは、議会に素案を報告し、その後1か月程度の期間を設けてパブリックコメントという流れになる。パブリックコメントの中で大きな変更ということになれば、さらにもう1回会議を開くことも考える。</p> <p>事業計画の名称であるが、本計画は子ども・子育て支援法に定められたものであると同時に、「いきいきこどもプラン～いずも次世代支援行動計画～」を引き継ぐ計画と説明したとおり。そういうことで、現行のいきいきこどもプランというタイトルをそのまま引き継ぎ、副タイトルを出雲市子ども・子育て支援事業計画としたい。これについての意見があれば次回の会議で伺う。</p>
子育て調整監	<p>5 閉会</p> <p>本日は、いろいろと意見をいただき、感謝申しあげる。多くの意見をいただいたうえで、具体的に動いていく計画にしていきたいと考えているので、素案のとりまとめ期限と考えている時期までにあまり時間はないが、もう少しの間、協力をいただきたい。</p>